

第62期中間報告書
フクダ電子株式会社

2008.09

平成20年4月1日から平成20年9月30日まで



 **FUKUDA
DENSHI**

<http://www.fukuda.co.jp/>

証券コード：6960

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第62期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の中間報告書をお届けするにあたり謹んでご挨拶申し上げます。

当社の歩みは、創業者・福田 孝が長兄とともに開発した国産第1号の心電計から始まります。そして1939年、心電計の製造・販売を本格的にスタートし、明年で創業70周年を迎えます。創業以来、順調に社業を進展して来ることができましたのも、ひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

医療の発展を支える、この使命に徹しME（メディカル・

エレクトロニクス）機器の開発を通じて医学の進歩に貢献するという熱い思いを受け継ぎ、フクダグループの今日はあります。

さて、米国発の金融危機により、未だ世界経済の動向は混沌とし予断を許さない状況が続いております。私どもは、この逆風にたじろぐことなく細心の注意をはらい、前段に申し上げました「使命」を果たすことでお客様、患者様そして社会との信頼関係を築き上げ、フクダグループの企業価値向上に全力を注いで参ります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご理解と変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

株主様への利益還元について

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要施策の一つとして考え、内部留保を確保しつつ継続的かつ安定的な利益還元を行うことを基本方針としており、当期の中間配当は日頃のご支援にお応えするため、1株当たり40円とさせていただきます。

1株当たりの
中間配当金

40円



代表取締役社長

福田 考太郎

連結営業の概況

1 営業概況 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

当第2四半期連結累計期間における経済環境では、サブプライムローン問題から生じた金融不安が、信用収縮を引き起こし、実体経済に影響を与え始めました。わが国では、輸出高の減少、原材料等の価格上昇に加えて、設備投資の抑制など国内景気に減速感が見られ始めました。

医療機器業界では、今年4月の診療報酬改定において、産科・小児科への重点配分が行われた一方、医療機関に対するDPC（入院医療費の包括支払い）拡大等の医療制度改革が進められ、

病院と診療所の効率化を狙った機能分化の進展や在宅医療分野の拡充が見られました。

このような状況の下、当社グループの当第2四半期連結売上高は、428億13百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益31億1百万円（前年同期比24.4%増）、経常利益31億66百万円（前年同期比26.1%増）、四半期純利益16億58百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

2 部門別概況 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

生体検査装置部門 ▶▶▶

特定健診義務化の影響もあり、引き続き心電計・眼底カメラが伸張しました。超音波画像診断装置、血圧脈波検査装置は、海外売上が伸びたものの、国内売上は減少しました。

その結果、連結売上高は116億18百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

治療装置部門 ▶▶▶

ベースメーカーが販売台数は伸びたものの、公道償還価格引下げの影響を受け、売上が減少しましたが、在宅医療向けレンタル事業（酸素濃縮器、睡眠時無呼吸症候群の治療器、在宅人工呼吸器）、AEDが引き続き順調に推移しました。

その結果、連結売上高は183億39百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

生体情報モニター部門 ▶▶▶

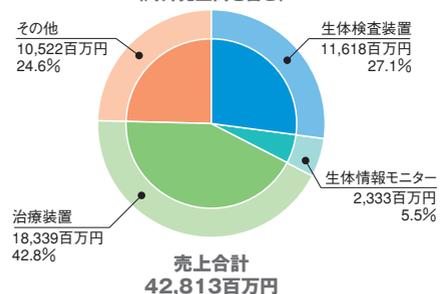
国内・海外共に売上が減少しました。その結果、連結売上高は23億33百万円（前年同期比23.4%減）となりました。

その他部門 ▶▶▶

記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する付属品及び消耗品を主に扱っております。

その結果、連結売上高は105億22百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

2008.09 第2四半期連結累計売上高
(海外売上高を含む)



3 通期の見通し

米国を発端とする金融不安の実体経済への影響、為替変動リスク等不確定要素が顕在化するなど、国内景気の後退による設備投資の減少が懸念されます。さらに国民医療費の抑制、病院経営の悪化等、医療を取り巻く環境は厳しさを増す中、引き続き医療制度改革も進められています。

このような状況を鑑み、当第2四半期連結累計期間の業績は上振れたものの、通期見通しにつきましては、本年5月19日に発表した業績予想から変更ございません。

特集 / 欧州心臓学会 ESC (European Soc 世界のステージへ、活躍の場を大きく広げるためにすでに

8/30~9/2、ドイツ・ミュンヘンにおいて「心血管イメージング」というテーマのもと、欧州心臓学会が開催されました。期間中、様々な研究発表と展示が行われる中、フクダ電子国際営業部も学会展示を実施。現地ドイツ支店（ミュンヘン）のスタッフをはじめ、万全の体制で臨みました。ブースでは新製品であるフルデジタル超音波画像診断装置 UF-870AGをはじめ、多機能心電計 FX-7542、血圧脈波検査

装置 VaSera VS-1500E、完全防水型のデジタルホルター記録器 FM-180など、フクダ電子が誇る世界クラスの製品を展示。欧州はもとより中東、アフリカ、アジア圏等の世界各国から集まった多くの方々をブースを訪れ、昨年を大きく上回る引き合いをいただくことができました。これは世界進出へ向けてのひとつの重要なステップであり、大きな手応えを得ることに成功したと確信しております。



フクダ電子のブースでは、自然な人の流れが生まれ、効率の良い展示説明ができました。

デジタルホルター記録器 FM-180



完全防水を印象的にアピールしたFM-180の大型パネル。

ociety of Cardiology) 出展レポート

ステップアップを始めています。



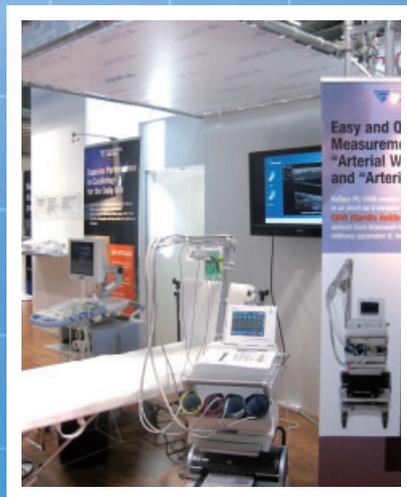
フルデジタル 超音波画像診断装置 UF-870AG



展示ブースには、欧州を中心に、中東、アフリカ、日本を含めたアジア圏からお客様が来場されました。



動脈硬化性病変から来る血管年齢を算出するVaSera VS-1500E。



ノイズを極限まで抑え、クリアな画像で超音波検査の信頼性をより高めたUF-870AG。

血圧脈波検査装置 VaSera VS-1500E

製品紹介

パノラマ心電計

FCP-8453

新しい診療のカタチ。
波形からイメージへ・・・



主な特長

心電計による診断は、心電図波形から読みとるもの・・・
その常識を打ち破る、新しい機能を搭載した心電計 Cardimax FCP-8453 がついにデビューです。心臓をビジュアル化し、その鼓動までを感じさせる。これまで心電図波形から推測～特定していた異常部位がより視覚的・直感的に表現できるようになりました。これが心電図解析の新しいカタチです。

フルデジタル超音波画像診断装置

UF-870AG

先進の高性能・高画質で、
検査を行う人に、患者様に
やさしく快適な環境を。



主な特長

「人にやさしい高性能」を開発コンセプトに誕生。ノイズを極限まで抑え、クリアな画像で超音波検査の信頼性を高めています。検査効率を向上させ、検者はもちろん患者様への負担も軽減。コンパクトなボディに、扱いやすいオペレーションシステムを搭載して、快適な検査環境をつくりだします。

自動血球計数CRP測定装置

LC-667CRP

即時の結果から迅速な診断を。
その場で結果確認が可能になり、
患者様に安心感を提供。



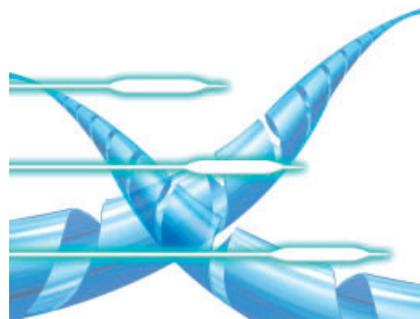
主な特長

血球計数のすべてを柔らかなフォルムに集約。院内のどこにでも置くことができるコンパクトサイズで、簡単な操作で高度な測定を実現する臨床現場志向の検査装置です。「即時」結果から迅速な診断を行うことで、患者様が検査結果の確認のために再来院する必要がなくなり、満足度の向上が可能になります。

PTCAカテーテル

Cyclone (サイクロン)

フクダ電子初の自社開発・製造。
多数の独自技術を駆使し、
心臓カテーテル治療に貢献。



主な特長

狭心症・心筋梗塞等、虚血性心疾患における、心臓カテーテル治療に使用します。カテーテル手元側 100cm のプラスチックシャフト全長に渡り、螺旋状の金属製コイルを補強体として採用することで、全長に渡り優れた剛性変化をつけることに成功。高い通過性能と安定した性能を実現しました。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在	科 目	当第2四半期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	62,518	63,497	流動負債	20,572	21,347
現金及び預金	25,095	22,540	支払手形及び買掛金	12,177	12,465
受取手形及び売掛金	20,492	23,710	短期借入金	3,366	3,500
有価証券	998	999	未払法人税等	1,229	884
商品及び製品	10,525	10,655	賞与引当金	1,682	1,666
仕掛品	112	84	その他の引当金	161	210
原材料及び貯蔵品	2,109	2,646	その他	1,956	2,620
その他	3,470	3,168	固定負債	4,408	4,404
貸倒引当金	△ 285	△ 308	長期借入金	83	183
固定資産	36,665	36,088	退職給付引当金	3,174	3,097
有形固定資産 ※2	19,700	18,496	その他の引当金	178	197
無形固定資産	2,922	3,295	負ののれん	0	1
投資その他の資産	14,042	14,296	その他	970	925
投資その他の資産	14,090	14,345	負債合計	24,980	25,752
貸倒引当金	△ 47	△ 49	純資産の部		
			株主資本	74,190	73,311
			資本金	4,621	4,621
			資本剰余金	9,982	9,982
			利益剰余金	60,352	59,473
			自己株式	△ 766	△ 766
			評価・換算差額等	3	510
			その他有価証券評価差額金	8	447
			為替換算調整勘定	△ 5	63
			少数株主持分	10	11
			純資産合計	74,203	73,833
資産合計	99,183	99,585	負債純資産合計	99,183	99,585

注記事項

1. 手形割引高 (輸出手形割引高) 164百万円 448百万円
- ※2. 有形固定資産の減価償却累計額 及び減損損失累計額 18,747百万円 18,218百万円

連結損益計算書（累計）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前中間期（ご参考）
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
売上高	42,813	41,874
売上原価	24,121	23,653
売上総利益	18,691	18,221
販売費及び一般管理費※	15,590	15,726
営業利益	3,101	2,494
営業外収益	251	161
受取利息	11	7
受取配当金	91	68
保険事務代行手数料	—	23
その他	149	61
営業外費用	187	144
支払利息	31	44
為替差損	120	77
その他	35	22
経常利益	3,166	2,511
特別利益	128	627
投資有価証券売却益	—	427
固定資産売却益	5	0
保険解約益	100	139
貸倒引当金戻入額	21	59
その他	1	—
特別損失	270	255
固定資産売却損	3	0
固定資産除却損	111	69
投資有価証券評価損	139	—
減損損失	13	2
関係会社株式売却損	—	182
その他	1	—
税金等調整前四半期純利益	3,024	2,883
法人税、住民税及び事業税	1,448	770
法人税等調整額	△ 83	591
法人税等合計	1,364	1,362
少数株主利益	1	0
四半期純利益	1,658	1,520

注記事項

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

役員従業員給料手当等	5,596百万円	5,406百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	1,312百万円	1,231百万円
役員賞与引当金繰入額	49百万円	61百万円
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	19百万円
退職給付費用	351百万円	271百万円
減価償却費	731百万円	693百万円

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前中間期（ご参考）
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,393	3,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,784	△ 3,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,010	△ 502
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 53	8
現金及び現金同等物の増減額	2,543	△ 681
現金及び現金同等物の期首残高	21,958	24,297
連結範囲の変更による現金及び現金同等物の増加額	—	△ 62
現金及び現金同等物の四半期残高	24,502	23,553

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 平成19年3月14日）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、当第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しております。

会社の概況

(平成20年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 78,000,000株

発行済株式の総数 19,588,000株

株主数 2,495名

自己株式の状況

・当中間期の自己株式は、単元未満株式の買取請求180株、買取請求240株により60株減少となっております。

自己株式の処分状況

・当中間期の処分は行っていません。

自己株式の保有状況

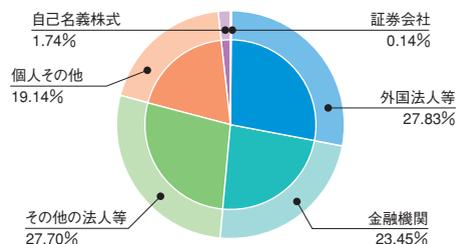
・平成20年9月30日現在の保有自己株式数は以下のとおりとなっております。

区分	株式数
発行済株式の総数	19,588,000株
自己株式数	340,079株

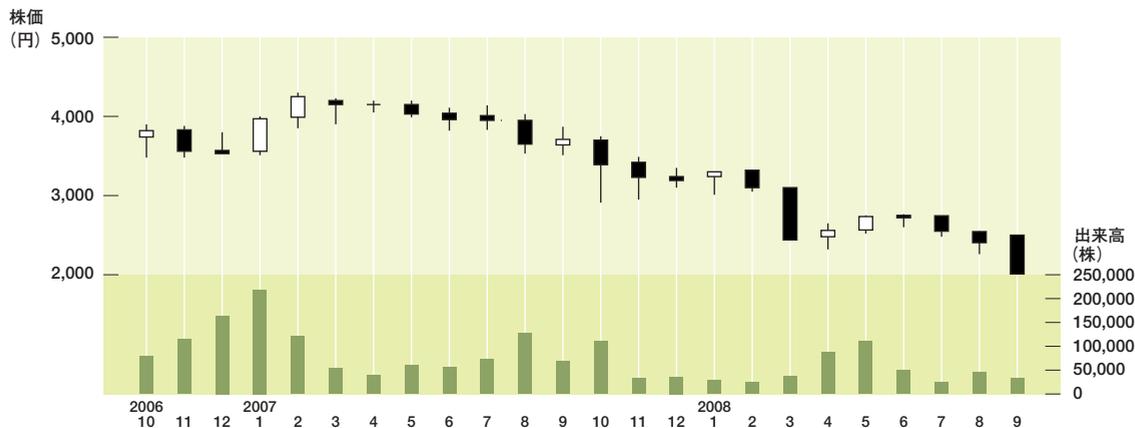
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ステールパートナーズ ジャパン ストラテジックファンド(オフショア)エルピー	2,757	14.08
アトミック産業株式会社	2,486	12.69
東京エンタープライズ株式会社	1,447	7.39
みずほ信託 退職給付信託 東京都民銀行口 再信託 受託者資産管理サービス信託	922	4.71
株式会社みずほ銀行	778	3.98
日本生命保険相互会社	752	3.84
株式会社三菱東京UFJ銀行	725	3.71
ダンスケ バンク クライアーツ ホールディングス	641	3.27

所有者別分布状況 (%は持株比率)



株価の推移



会社の概況

設立年月日	昭和23年7月6日
資本金	46億2,160万円
事業内容	医用電子機器の製造・販売および輸出入
主な取引銀行	株式会社東京都民銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社北陸銀行 商工組合中央金庫 住友信託銀行株式会社

取締役及び監査役

代表取締役社長	福田孝太郎
専務取締役	藤原潤三
専務取締役	尾崎健治
常務取締役	白谷大治郎
常務取締役	瀬川裕一郎
取締役	瀬川進修
取締役	白川行雄
取締役	中川根泉
取締役	坪田修一
常勤監査役	小川吉正
監査役	岡本芳辰
社外監査役	岡田澤藤啓二

フクダグループ

フクダ電子北海道販売株式会社	フクダ電子兵庫販売株式会社	フクダライフテック南近畿株式会社
フクダ電子北東北販売株式会社	フクダ電子岡山販売株式会社	フクダライフテック兵庫株式会社
フクダ電子南東北販売株式会社	フクダ電子広島販売株式会社	フクダライフテック中国株式会社
フクダ電子新潟販売株式会社	フクダ電子四国販売株式会社	フクダライフテック四国株式会社
フクダ電子北関東販売株式会社	フクダ電子西部北販売株式会社	フクダライフテック九州株式会社
フクダ電子西関東販売株式会社	フクダ電子西部南販売株式会社	フクダカーディアックラボ東日本株式会社
フクダ電子南関東販売株式会社	フクダライフテック北海道株式会社	フクダカーディアックラボ西日本株式会社
フクダ電子東京販売株式会社	フクダライフテック北東北株式会社	フクダライフテック株式会社
フクダ電子東京中央販売株式会社	フクダライフテック南東北株式会社	フクダカーディアックラボ株式会社
フクダ電子東京西販売株式会社	フクダライフテック新潟株式会社	株式会社フクダ電子多賀城研究所
フクダ電子神奈川販売株式会社	フクダライフテック関東株式会社	株式会社フクダ物流センター
フクダ電子北陸販売株式会社	フクダライフテック常葉株式会社	フクダ電子技術サービス株式会社
フクダ電子長野販売株式会社	フクダライフテック東京株式会社	フクダメディカルソリューション株式会社
フクダ電子中部販売株式会社	フクダライフテック横浜株式会社	北京福田電子医療仪器有限公司
フクダ電子三岐販売株式会社	フクダライフテック北陸株式会社	FUKUDA DENSHI USA.,INC.
フクダ電子京滋販売株式会社	フクダライフテック長野株式会社	FUKUDA DENSHI Switzerland AG
フクダ電子近畿販売株式会社	フクダライフテック中部株式会社	
フクダ電子南近畿販売株式会社	フクダライフテック関西株式会社	

フクダグループの取り組み

おかげさまで明年創業70周年を迎えます。
グループ力の強化で、さらなる発展を目指します。

フクダ電子は1939年の創業以来、医療機器専門メーカーとしての社会的使命に徹することを旨とし邁進を続け、明年で創業70周年を迎えます。世界規模で大きな変化を遂げようとしている今、さらなる発展を目指すには、医療現場を超えて活躍のフィールドを広げることが必要であると考えます。すでに街中や公共施設などに設置されるAEDの普及に努めていますが、さらに自宅で治療を行う方々にも「安全・安心・快適」をお届けする在宅医療の分野にも力を注いでおります。

医療現場から自宅まで、活躍の場を広げます。

フクダライフテックは、HOT（在宅酸素療法）だけでなく最近注目されているSAHS（睡眠時無呼吸低呼吸症候群）並びにHMV（在宅人工呼吸療法）などの分野にも事業範囲を拡大。これからさらに在宅医療の必要性が高まることが予想されます。



医療機器

心電計 AED 呼吸器

+

在宅医療

酸素 呼吸 睡眠

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネット ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/ retail/service/daiko/index.html
同取次所 公告方法	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 当社ホームページに掲載する。 < http://www.fukuda.co.jp/ >
上場金融商品取引所	ジャスダック証券取引所

【株券電子化後の株式に関するお届出先及びご照会先について】

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出及びご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といたします。)を開設いたします。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、左記の電話照会先にお願いいたします。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて】

〈買取請求〉特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。

〈買増請求〉平成20年12月12日から平成21年1月4日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。

フクダ電子株式会社

本社 東京都文京区本郷3-39-4 TEL. (03) 3815-2121代

医療機器のフクダ電子

検索



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。



ミックス品

FSC認証及び管理された森林からの製品グループです。
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-1499
© 1996 Forest Stewardship Council